

六川崎電正會の蹶起

六月二十五日川崎造船所は第五十回定時株主總會を開きたるが其席上常務取締役永留小太郎氏は、従業員支持に就て左の如く演説したり。

第五十回定時株主總會を開くに當りまして一言申し上げます。大戦以上歐米先進國に於ける勞資兩者の紛糾に就ては暫らく別問題と致しまして最近我國に於ける此の兩者の軋轢が尤も憂慮すべき状態にありませぬ事は皆様も御承知の如く甚だ遺憾の次第で御座います。然るに此の間に於きまして我社の株主と従業員とが常に一心同體の姿を以て一貫して居りますことは誠に御同慶の至りに存じます。之れ偏に株主諸君が常に従業員の生活の安定と幸福の増進に就て深き同情と考慮とを賜る結果に外ならないので御座います。之れ偏に此の機会に於て深く感謝致します。又我従業員が勤勉で誠實で會社の事業の爲に奮勵致します事を諸君に御報告申し上げます。御承知の通り大戦以來我社二萬の従業員が終始會社の爲に奮勵努力し居ることを得ますのは誠に私共の光榮とする處で御座います。御承知の通り大戦以前は會社十時間制度時代に於けるよりも遙かに優良の成績を示して居る間に驚嘆せらるゝ程の成績を擧げ聊かなりさも國家に貢獻する所がありました事は今更申述ぶる迄もなき事と存じます。特に本年一月八時間制勵行以來の成績に徴しまするに我従業員一同は會社十時間制度時代に於けるよりも遙かに優良の成績を示して居るので御座います。即ち賃金は十時間時代と同様で御座いますが、作業の分限は八時間にして尙ほ且つ十時間の時代より以上に増進して居る次第であります。現に朝の始業時の如きも一分の遅延なく仕事に掛り又終業時には一分も早く仕事を止めるものも御座いません。斯くの如く我社が勤なる従業員を有することは諸君と共に欣幸とする處であります。

従業員が一所懸命に奮勵致しましたにも拘らず其の結果が本期の決算に於て配當を半減して諸君に提供するの止むを得ざるに至りましたのは如何にも遺憾至極に存じます。然し之は時運の影響するところ如何さも致し方が御座いませぬ。世界の天勢は今や戦後の反動期にあります次第でお互に唯此の難關に堪へ奮闘努力して之を切抜ける外はありませぬ。暫時の間株主諸君に於かれましても従業員一同の勉強に免じて御幸抱あらんことを切に願ひます。今少し世界の天勢が恢復期に向ひましたならば又諸君と共に愉快と幸福とを頒つ時代が必ず到来すること、信じます。本社は来る十月十五日を以て創立滿二十五年に相當致しまするので聊か株主諸君に對し感謝の意味をも含み茲に増資の爲め臨時配當の案をも議案として提出致しました。好況時代でありますれば従業員に

も充分な賞與を遣り又株主諸君にも現金にて充分御願ひ致したい社長の希望であります。此の不況時代では満足な事が遺憾ながら出来ませぬ故に、此際は従業員には志ばかりの事をして済ませることに致しました。株主諸君に對しましては此の不況時代止むを得ず積立金中より振替拂込みの増資案を提出すること、致しました。之は將來に於て株主諸君に多大の御負擔を仰ぐ事となる次第で御座います。誠に御氣の毒に存じます。我社が前に述べました如き忠實勤勉なる社の實さも謂ふべき二萬の従業員をして失業者を出すことなく、又生活の不安を感じしむることもなく、此の不況時代を比較的幸福に其の家族と共に過すことが出来る様に致し度く株主諸君の御迷惑も顧みず茲に御願ひ申上ぐる次第で御座います。何卒私共の衷情の存する所を御察し下さいまして御賛成あらんことを願ひます。申上ぐる迄もなく現代の産業は複雑なる組織と精巧なる機械とを必要とするので御座います。之は優秀なる技術と豊富なる資本とを要素と致します。資本のみでも又努力のみでも産業の成立發展は望み得ないのであります。此の兩者の完全なる結合融和があつて初めて完成する次第であります。加之今後の不況時代に於ては生産費を減じ仕事の分量を多くして數で利益を擧げる事と、優秀なる技術により製品の優良を以て他の競争に打勝つより外道がないのであります。従つて従業員一層の勤勉を要すると同時に又資本の増加を必要とするので御座います。諸君に於かれましても此の勤勉なる従業員一同を愛護せらるゝことが即ち國家に對する御奉公の一端とも相成ること、御承知を願ひます。ことを得ますれば我忠實なる従業員一同も諸君の御同情に感奮して一層の努力を致し、延ては會社事業をして益々隆盛の域に達せしむることが出来る事と信じます。松方社長は御承知の通り目下海外に出張致しまして會社の爲め株主諸君の御好意に酬いんがため又従業員の幸福を圖らんが爲に只奮奮として居る次第で御座います。が、原案に就きましては社長指揮の下に出来致したもので御座いますから我社長の勉強に免じて満場一致御賛成御決議下さいますれば本懐に存じます。

永留重役がかゝる演説をなしつゝある時、川崎造船所の一角は既に漸く動きつゝありしなり。月の二十一日午前十時頃電氣工作部職工池定永(三四)が作業船に赴く途中汽艇より墜落行衛不明となりしに對し會社側の措置頗る冷淡を極めたるの一事は事件の導火線たるの觀あり。池定永の屍體が廿八日午後四時兵庫部第一類通船組合船天津春梅吉に依り港内九番浮標附近に於て發見せらるゝまで、電氣工作部(男工八百四十女工四十)が池定の遺族(老母妻子都合三人)の救護と會社の冷淡彈劾に一